

〔嫁入記〕一くろだなとは、ちがへだなの事なり、以上三ぢうなり、上下はいたをひたわたしにあるべし、中はたかくひきて違てこしらへ候何にても、てぐさの物をおくなり、みづしとは此たなのえたを、四方ふさぎて、まひ戸をして、からじやうおろすやうにえたるをいふなり、すこしひする物など入べき也。

〔貞丈雜記調度〕一御厨子棚と云は、本は御厨子所にて食物を納め置く棚也。○註 黒棚は厨棚也、リヤダナヲ略シテクロダナト云也、クリヤト云ハ、籠ノ煙ニテフスホリ黒クナル屋ナルユヘ、クリヤト云也、クリハ黒也、ロトリト通音也、クリヤト云モ即御厨子所ノ事ナリ。

〔調度口傳〕一黒棚の事

すべて御厨子に同じ、厨子一ツ有、扉の内左布袋、右から子也、寸法も同様御厨子に同じ、尤大小有もの也、此は筆返しなし、ヲヒ足なり、又流義によりて、厨子二ツ付たるも有、大内の黒殿の棚を表すと云説有ども、齒黒棚の略なるべし。

〔御厨子黒棚三莊之卷〕黒棚道具

一拂箱 一小角赤

一元結箱

一櫛箱

一眉作箱

一黒齒箱 一亂箱

一渡金

一爪切箱

一昆布箱

一薄やう 一やはく 文鎮

〔將軍徳川家禮典附録 十一〕右大將様○徳川家定御婚禮之次第、天保十二辛丑年五月廿八日○中略

姫君様御入輿御道具出來之内○中略

濃梨子地、若松唐草兩御紋ちらし、  
一御黒棚 一飾

御覆花色純子、兩御紋付、御飾御道具

〔倭名類聚抄十六〕櫃木器、蔣魴切韻云、櫃音貴同、和名比部、俗有長櫃、似厨向上開闔器也、

〔事物紀原八〕舟車帷帳、匱

櫃名稱